



エネルギー地産地消プロジェクト について



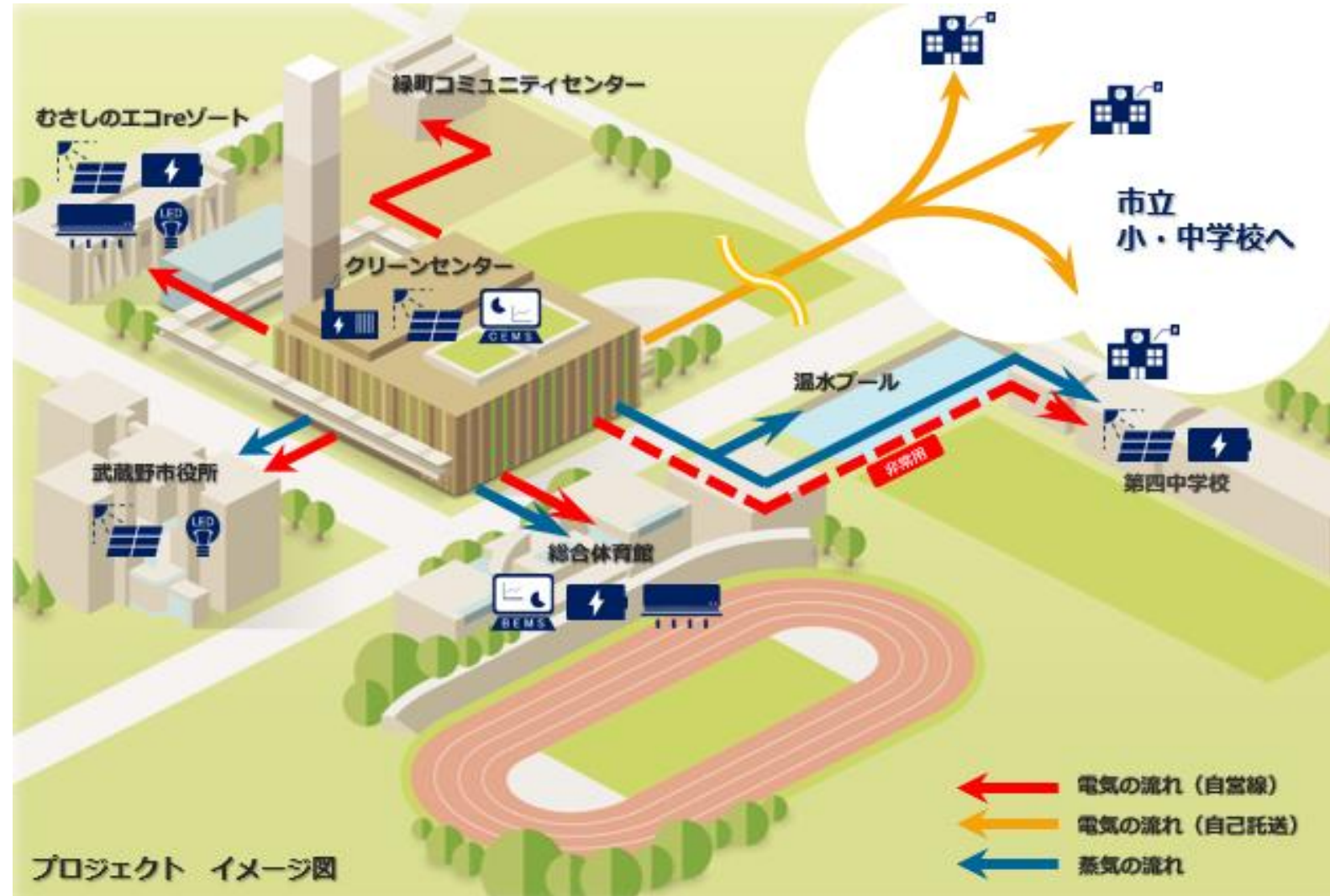
1.プロジェクト始動の経緯

- 武蔵野市第四期長期計画に「エネルギー地産地消」を明記
- 80%以上が住居地域
 - 再生可能エネルギーを生むために新しい土地開発は不可能
- 平成29(2017)年、現在の武蔵野クリーンセンターが新設・稼働

「ごみ処理」という市に不可欠かつ既存のインフラを活用

2.エネルギー地産地消プロジェクトの概要

- 平成30(2018)年からスタートした3か年事業
- 武蔵野クリーンセンターの「ごみ発電」を中心に、地域全体で効率的にエネルギーを生み・使う。
- 年間約1,000tのCO2削減。
- 地産地消率は77%(全国トップクラス)



3. プロジェクトを支える技術

(1) ごみ発電

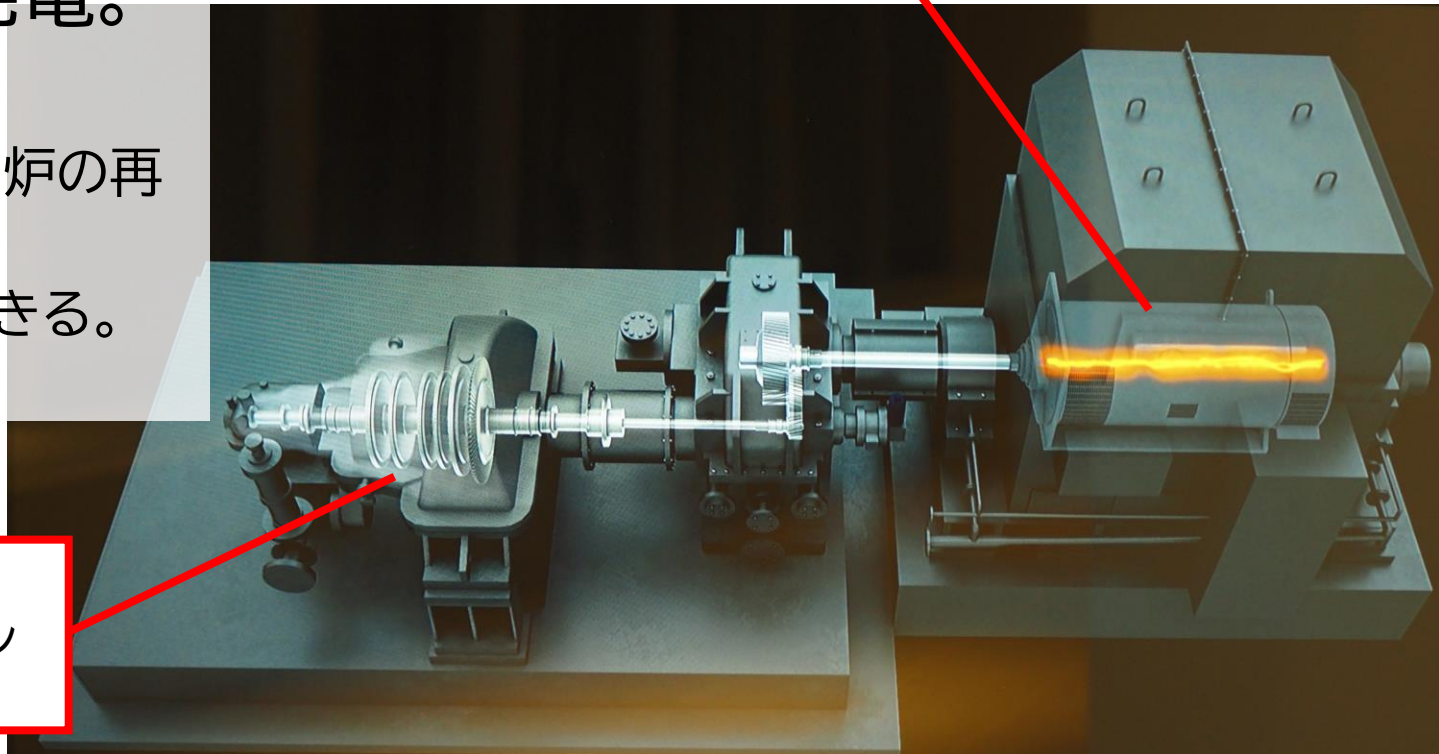
ごみを燃やす時に発生する熱を蒸気に替え、タービンを回すことで発電。

災害時には都市ガスをエネルギー源に、焼却炉の再稼働が可能。

→市役所などの公共施設への送電を継続できる。

タービンが回転することで
発電

蒸気で回すタービン



3. プロジェクトを支える技術

(2) 蓄電池

夜間に発電された電気を蓄え、
電気需要の多い日中に放電。

1台で、一般家庭約1か月分の電気を蓄えることができる。

(3) 自己託送

電力会社の送電線を利用して、
クリーンセンターで発電した電
気を送電。

不足する電力は、環境性能の高い電気を調達(PPS切り替え)。



3.プロジェクトを支える技術

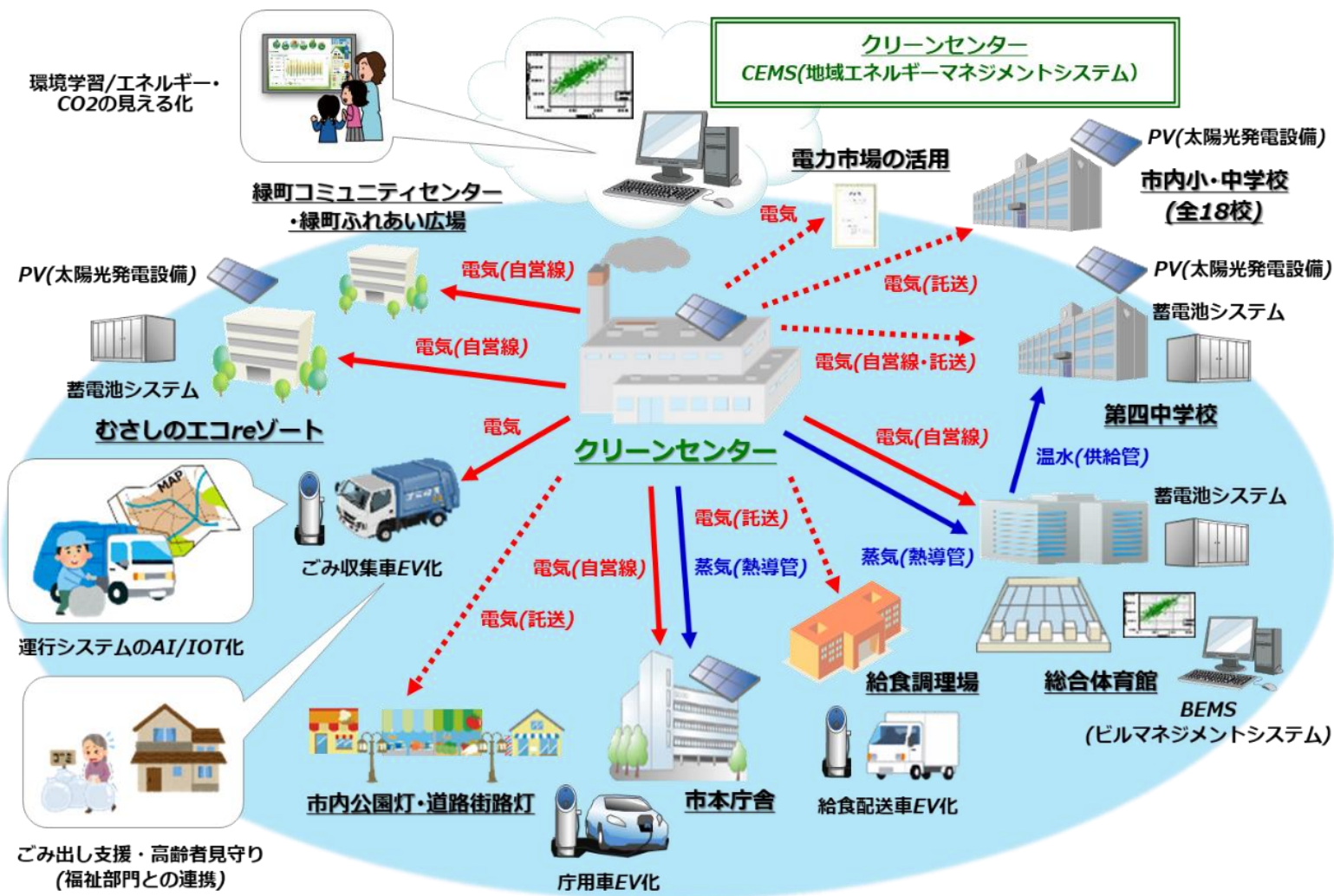
(4) CEMS(セムス)

クリーンセンター周辺の電気需要と供給バランスを一括管理する、このプロジェクトの司令塔。

Community Energy Management Systemの略



4. 今後の展開

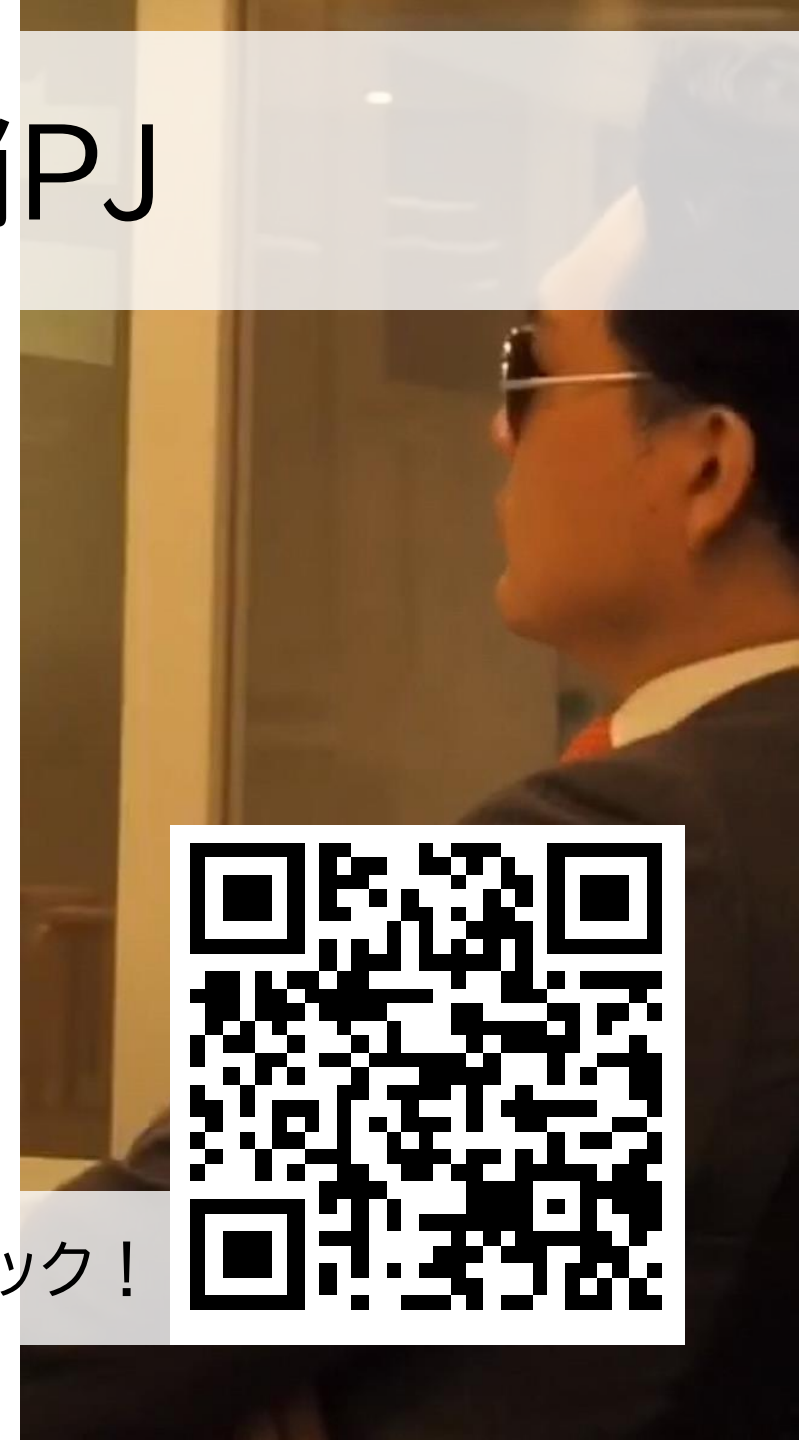


- 小規模蓄電池の複数展開(避難所となる市内公立学校)
- 電気自動車への電力供給
- 自己託送先の拡大
- 電力供給先の効率的なエネルギー消費(BEMS化)

5.動画で見るエネルギー地産地消PJ



QRコードから動画をチェック！



武蔵野市のエネルギー地産地消は
続きます…

